

科目名		臨床検査演習			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	前期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

言語聴覚療法の検査における基本的な知識と技術を習得する。

〔授業全体の内容の概要〕

学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について学ぶ。

〔講師の実務経験〕

幸生病院、ドレミリハビリテーションセンター、機能訓練教室にて言語聴覚士として29年間勤務

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

言語治療において、大切な情報収集の中核となる検査を、系統的に行うことを目的とします。主に失語症のリハビリテーション計画を立案するために、S L T A、W A B失語症検査の内容を把握し、手順を習得する。また、検査の解釈と評価もあわせて学習する。

回数	講義内容
1	標準失語症検査（S L T A）の概要説明、実施にあたっての全般的注意
2	練習問題をしながら聴く項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）
3	〃
4	練習問題をしながら話す項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）
5	〃
6	練習問題をしながら書く項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）
7	症例Ⅰの検査場面を見て、反応を記録し採点する（V T R利用）
8	症例Ⅰの成績を出し、初期評価する
9	症例Ⅰの訓練プログラムを立案する
10	他の練習問題をやる
11	〃
12	〃
13	症例Ⅱの検査場面を見て、反応を記録し採点する（V T R利用）
14	W A B失語症検査の概要説明
15	W A B失語症検査（検者と被検者に分かれて演習）

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準失語症検査マニュアル		千葉テストセンター（新興医学出版社）

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

筆記試験にて評価する。